

# 第1工学系 同窓会報

第3号(H12.1)



この3つのイラストは「火」、「手」、「水」の象形文字をもとに、エネルギー変換工学、機器設計学、熱・流体工学をイメージしています。

豊橋技術科学大学 第1工学系 同窓会

今年も同じパターンになりましたが、年頭に当たり、会長よりご挨拶申し上げます。

## 雑 感

会長 今泉 敏幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

あれほど騒がれた Y2K 問題も「大山鳴動してねずみ一匹」程度で終わりそうです。年末年始も好天が続き、このように今年こそ良い年であればと願っています。

昨年は、JCO の臨界事故や H 2 ロケットの打ち上げ失敗など「技術立国の神話」が崩れ去る出来事が相次ぎました。経済界から「たるんでいる」との叱責もありましたが、本当に日本の技術はどうなってしまったのかと首を傾げざるを得ません。一方、ルノーと日産連合の誕生など、グローバル化が恐ろしい勢いで進行していますし、グローバル化に拍車をかけるように日本でもインターネットの波が急速に押し寄せています。旧来の力が衰退し、新しい力が勃興する、まさに 21 世紀の世界を暗示するような出来事が昨年に集中したように思います。

21 世紀においても日本が「技術立国」で有りつづけることは、日本が豊かで平和で有りつづけるための重要な課題の一つであり、一人一人の科学技術者の活躍がそれを可能にすると信じています。

話は変わりますが、昨年末に、柳田先生から「技科大スピリッツ」を感じたことがありますかとのご質問を受けました。特にありませんとお答えしましたが、結局は、「会員の皆様方の活躍」が世間からどのように評価されるかで「技科大スピリット」が明らかになり、延いては豊橋技術科学大学の評価に繋がると思います。またそれが、21 世紀においても日本が「技術立国」で有り続けるための一助になればと願っています。

偉そうなことを書いてしまいましたが、豊橋技術科学大学も卒業生を送り出してから早 20 年になろうとしております。初期の卒業生は、そろそろ中心的な役割を担う立場にあると思いますし、「技科大スピリットとは何か？」の回答は、私も含めた会員の皆様方ががんばりに委ねられていると思います。

この会報は会員の方々の活躍の様子を知る上での恰好の場があります。まだ、ご投稿いただいていない会員の方々の積極的なご参加をお待ち致しておりますので、宜しくお願い致します。最後に皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念致します。

今回は小沼先生にご寄稿頂きました。相変わらず精力的な研究活動の傍ら、ゴルフの練習にもご熱心です。

## 大学の近況

機械システム工学系教授

小沼 義昭

2000 年明けましておめでとうございます。

もうすでにご存知のことかと存じますが、悲しいニュースを

お伝えしなければなりません。豊橋技術科学大学第 3 代学長の佐々木慎一先生におかれましては、昨年暮れ 12 月 15 日にご逝去なさいました。佐々木先生は技術科学大学の創設に携わられた後、副学長を 2 期 6 年、学長を 2 期 6 年務められ、豊橋技術科学大学の現在の隆盛を築かれました。ここに、心からご冥福をお祈りいたします。

後藤圭司先生は本年 3 月に任期 4 年の学長を終えられますが、昨年暮れの学長選挙でめでたく再選を遂げられ、2000 年 4 月から引き続き 2 期目 2 年間の学長職に就任されます。現在、独立行政法人化などとも関連して、大学はそのあり方を問われており、これから数年の間は激しい変革の時代に入るものと思われます。この期に学長になられる後藤先生が大変ご苦労されるだろうことは間違いなく、お体にはくれぐれも気をつけていただきたいと思います。

機械システム工学系の教職員構成は昨年と変化ありません。世の中、景気は若干上向いたようでも就職難はさらに厳しく、大学新卒の就職率は 60 パーセントを少し越えた程度だそうですが、機械系学科がいいのか、優秀な OB の評判のせいなのか(？)、我が 1 系の就職率は 100 パーセントで、大変喜んでおります。先日木更津で開催された燃焼シンポジウムに参加しましたが、そのとき会場で多くの卒業生に会うことができました。私が豊橋に来たのは 35 歳でしたが、現在 1 期生は 42 歳になるようで、OB 諸君は自分が歳をとったことがっくりしているようでしたが、私のほうは、皆さんの活躍されている様子を拝見して、頼もしく、大変うれしく感じました。

以下は同窓生からの寄稿文です。9 名の方が寄稿して下さいました。昨年に引き続き、原稿を頂いた順に掲載してあります。

## 私の遍歴

下田 昌利

(1986 年 3 月修士課程修了, 沖津研究室)

(1997 年 3 月博士課程修了, 畔上研究室)

技科大との関わりは古く、そしてこんなに長いものになるとは思ってもみませんでした。縁があったのでしょうか、入学と卒業(修了)を繰り返して、11 年間も技科大に在籍してしまいました。まずは昭和 54 年に第 1 回の共通 1 次試験生として 1 年次に入学し、昭和 61 年に修了しました。研究室は沖津研で、掛け替えのない楽しく、有意義な 3 年間でした。実は研究室配属前、それまでの遊びすぎによる単位不足で 1 年間遊んでしまいました。この間、暇を持って遊ぶことを危惧してか、担任の沖津先生の勧めで、本間先生にお世話になり、有限要素法とやらを囁くことになりました。こんな便利なものがあるのか、というのが最初の印象でした。この有限要素法との出会いが、その後の人生に大きな影響を及ぼすとは思いませんでした。沖津研でも有限要素法を中心とした振動、音響関係の数値解析の研究を行い、沖津先生には研究のおもしろさを教えて頂き、こ

の世界へ関わる礎の3年となりました。大体、これで学生生活とは縁が切れるもので、当時、そのことを疑いもしませんでした。

修士課程を終え、旭化成に入社し、2年と少しばかりお世話になりました。そこでは複合材料関係の生産技術の仕事に従事しました。新規事業で規模も小さかったことから、会社の縮図になっており、技術的な内容の他、人事(のドロドロ)や物、金、情報の流れを種々勉強することができました。大きな組織へ入ると全体が見えにくいものですが、会社を知る良い機会となりました。また、最初の上司が、当時の先輩みんなの嫌がる(?)非常に厳しい方で、そこで鍛えられたことが会社生活の自信にもなったような気がしています。旭化成が嫌だった訳ではないのですが、数値解析への拘りを引きずっていたため、思いきって転職を考えました。

今の三菱自動車へは昭和63年に移りました。研究部の構造研究課へ配属になり、乗用車のボデーやシャシの構造解析をやらせてもらうことになりました。念願叶い、仕事で有限要素法に関われたことは大変な幸運でした。実務として構造解析に従事していましたが、ある上司との出会いが再び技科大へ在籍する契機となりました。基礎研究を重視するその上司は学位を取得することを勧めてくれ、近くにあった(因みに今の職場は岡崎市にあります)技科大の博士課程への入学を上層部へ具申ししてくれました。お陰で、平成5年に、技科大に再入学することになりました。指導教官は沖津研の後を継がれた畔上先生であり、研究室も修士の時と同じ場所で、戸惑いも全くなくすんなり研究に入り込むことができました。構造最適設計問題の解法に関する研究を行い、その中で重要な位置づけになる有限要素法を数学的な側面から勉強することができ、その美しさに感動したものでした。週の前半は会社で研究、後半の木金は研究室といったかなりハードなスケジュールでしたが、研究のための静かで纏まった時間が取れる環境は最高でした。多くの方がもう少し勉強しておけばよかったなあと過去を振り返ることがあるかと思いますが、通常はやり直しはできないものです。再び学べる機会を得た幸運で、学生時代の忘れ物をとり戻すことができ、好きな研究でもあったことから充実の期間でした。既に家庭を持ち、この間に2人目の子供が生まれましたので妻にはかなりの負担を掛けてしまいました。喧嘩もよくしました。畔上先生のご指導のお陰で、四年後の平成9年に学位を頂くことができ、トータル11年間という長い在籍を終えました。恐らくこれは記録ではないでしょうか? 沖津先生からの「遠回りしたな」という一言は、学部1年の時から迷惑を掛け通してきただけに、感慨深いものでした。

現在は入社以来の職場で構造解析を中心にしたCAE(有限要素法等の数値解析はこの業界でCAEと総称されるようになっています)による設計支援の業務を引き続き行っております。もし、類似の業務に携わっている方がいましたら、情報交換でもさせて頂ければ幸いです。

学生時代に出会った有限要素法とずっと関わっており、ライフワークになりつつあります。CAEの更なる発展のために何か役に立ちたいと考えている今日この頃です。

不思議なものです。いろんな出会いがあり、今に至っております。はてさて、今後はどうなるのでしょうか、私の遍歴。

最後に、技科大も設立当時と比べると課程数も増え、設備も拡充され、立派になりました。変化の激しい時代の中で、第一工学系は言うまでもなく、大学全体が益々発展し続けることを祈念しております。

**延べ11年という記録は当分破られないでしょう。  
これからも素晴らしい遍歴を重ねてください。**

### Energy Staff ~ There are reasons on men's back ~

野村 信福

(1993年総合エネルギー工学専攻修了, 中川研究室)

私が四国松山の城下町に移封されてもう6年になろうとしています。ここ四国松山は人口約50万の都市であり、正岡子規に夏目漱石、大江健三郎などで知られるように街のいたるところに文学の薫りがあふれています。市内のあちこちに『俳句ポスト』が設置されており、みなさんも松山にお越しのさいにはぜひ一度投句することをおすすめします。

松山市にある愛媛大学、通称愛大(四国で愛大と言えば愛媛大学です。)は四国地方最大規模の総合大学であり、市の中心部に位置しているために繁華街にも近く、学生達にとっても(もちろん私にとっても)勉強するには最適な環境が整っています。また、大学近郊には日本最古の温泉として有名な道後温泉が隣接しているので、温泉で一休みすることもできます。ときどき四国に台風が上陸しますが、松山市はその南側を石槌山系(標高1900m級)の天然の要塞に囲まれるように位置しているため、台風が直撃することはありません。年中通じて温暖な気候、日本のCalifornia、パスポートのいらぬ外国、生活するには最高の場所です。また、冬は山岳地帯には積雪があるのでスキー場も幾つか点在し、市内から車で1時間足らず走ればwinter sportsを満喫することもできます。

さて、紹介が遅れましたが、私は現在、愛媛大学工学部機械工学科エネルギー変換学講座にて日夜学生と一緒に勉学・研究に励んでいます。私は昭和60年4月に豊橋技術科学大学エネルギー工学課程3年次に編入学し、昭和から平成の激動の時期を豊橋で過ごしました。大学の専攻を決めるにあたっては、エネルギー工学の名称が若干20才の小生には斬新でカッコよかったのだと思います。技科大に入学早々、背中にEnergy Staff ~ There are reasons on men's back ~と書かれたトレーナーをクラスで作りました。洗濯する手間が省けるので制服がわりにほとんど毎日着ていました。腕のところには学籍番号が記入されていました。まだ、持っているかたはおられるのでしょうか。当時我々の担任だった“独身”の中川勝文先生もよく着ていらっしやいました。我々にとって、Energy Staffの文字は誇らし

く、他専攻の学生にも自慢できるネーミングでした。技科大創設時に機械工学とはしないで、第1工学系としてエネルギー工学と名付けたことにはそれなりに深い『理由』があったわけで、うまい"しかけ"がそこに仕込まれていたのです。いまでも自分の経歴を書くときに、エネルギー工学専攻修了と書けることに“新鮮さ”と、プライドを感じます。学生時代に初めて参加した学会が松山で開催されたのですが、まさか自分がその松山で働くことになるうとは思ひもありませんでした。さらに奇遇なことに、私が就職して1年後、畔上研究室の卒業生が愛媛大学に先生として赴任されてきました。ときどき技科大の今昔話で盛り上がっています。自分の人生を回想してみると、人生ってほんとうに数奇なものだとつくづく感じます。ようするに一つの神話なのです。

もう、3年くらい前のことになりますが、(故)大竹先生に愛大で集中講義をお願いしたことがありました。『資源・エネルギー・環境論』という講義内容でエネルギーギッシユな講義をしていただきました。この機会を利用して、松山市内在住の技科大1系出身者を囲んで簡単な親睦会を開きました。15人くらい集まったでしょうか、あれが大竹先生との最後のお別れ会になってしまいました。ここ数年、愛大でも高専生を積極的に受け入れるようになり、昨年からは編入生を定員化しています(昨年実績で機械工学科定員90名に対して編入学者5名)。本間先生も以前この会報で述べられていますように、技科大が高専生専用の特別な大学ではなくなってきたことは周知の事実です。技科大に全国に先駆けてエコロジー学科が創設され(今ではエコロジーはよく耳にする言葉となりました)、これから技科大が進むべき方向性が明確になってきたと思っていたら、エネルギー工学が機械システム工学と名称を変え、生産システム工学を他学科にもつ技科大にとって、理念・創造性が何か後退したようなイメージを感じてしまうのは私だけでしょうか。

なんでも振り返ってみると、思い出や過ぎ去りし日々をなつかしむのが人間なのであり、Energy Staff もそういうものなのです。人間一人一人に物語があり、それがどうであったのかを誰も知る余地はありませんが、今の学生諸君はEnergy staffの時代を知っているか。少なくともエネルギーに満ちあふれていた。あの時代は終わったのか。いやいや、むしろ知られてたまるものかというものであって、まあ、あまり壮大な幻想は描かない方が身のためというものだ。歴史は過ぎ去ってゆくものであって、『今日がだめなら明日があるさ』というもある。そして私は将来、Energy Staff が一つの神話作用となることを期待するのである。

私の好きな詩から、

我々のできることをしよう。  
夏には蠅がいるものなのだ。  
森を歩けば蚊に刺されるのだ。  
あれから126年以上たったいまでも、  
夏には蠅が、森には蚊が飛んでいる。

追伸

チョット余談になりますが、1985年(阪神タイガース優勝の年)、Energy Staffの有志は大学祭を盛り上げようという理由で、学生プロレス(通称TUTプロレス)を旗揚げし、愛知県下の大学祭をはじめ、各種イベントに数々参加しました。その後、学生プロレスは旧大竹研究室と中川研究室を中心に伝統?が引き継がれ、現在でも学祭を盛り上げてくれていることを大変うれしく思います。皆さんは学生プロレスが1系有志の全員のボランティアで行われていることをご存知だったでしょうか。

**素晴らしい詩をありがとうございました。  
ご活躍を期待しております。**

### あの人は今! ~釣り頃釣られ頃会創設者~

川合 大三郎

(1997年3月修了, 大竹研究室)

皆さん、いかがお過ごしですか? 私は卒業後、株式会社オーアンドケーの系列会社のプラスチック射出成形会社に就きましたが、一昨年12月からグループの本体である“冷間圧造用鋼線の製造”に活動の拠点を移しています。ですからこの業種に移ってから、まだ1年あまりで、仕事といえば、現場修行をしながら品質・環境に関する改善活動をゲリラ的に行っている毎日です。そう言えば今春には、我が社に後輩を招き入れるべく、豊橋技術科学大学にリクルーターとして伺ったこともありました。

近況としては、オーアンドケー岸和田工場でのISO14000取得に成功! 全社展開に向けエネルギー管理士(熱管理士)となるべく国家試験に合格しました。我が豊橋技術科学大学、特に恩師、故大竹一友先生の名を汚さぬよう、我が社を地球にやさしい会社にして行くつもりです!

川合大三郎・〔株〕O&K

09086552123@docomo.ne.jp

**国家試験合格おめでとうございます。技科大スピリットを地球に優しい会社作りに活かして下さい。**

### 高専の近況

奥村 幸彦

(1994年3月博士課程修了, 岡崎研究室)

総合エネルギー工学専攻(岡崎研)を修了し、その後、小沼研究室に半年の間お世話になり、母校である舞鶴工業高等専門学校に赴任しました。舞鶴高専に戻って5年になりますが、これまで高専で感じたことや近況について以下に綴らせていただきます。

まず戻って、最初に感じましたのは、学生さんの多様化でした。本校では留学生が全学生数の1.2%、および女子学生が現在では12%程度に増加しており(決して多い数字ではありません)

んが), 15 年前にはそれぞれがほぼ 0%であったことと比較すると格段に構成メンバーが実に多彩になっていました。それとともに男子学生も個性的な?ファッションに身をつつむ学生が増えており, 実に頭からつま先までカラフルとなり, (決して悪いことではありませんが,)最近では, 茶髪(赤髪?)で携帯電話を持ち歩き, 簡略化した言葉を話している学生を多く見かけるように感じます。私が在学していたときにいた職人臭い(ひげを生やし, 実習服を着て, 中古の車をいじっている学生, また, 機械加工で油まみれになって何かを作るような)学生は, 機械工学科の在学学生でも無くなってきました。私の研究室も最近嫌われている 3K(汚い, きつい, 少々危険)ですので, 学生に何か技術屋として魅せられるような結果なり成果をアピールする必要があります。

このように時の流れを感じるとともに, 学生の価値観が大きく変わっていることを感じる今日この頃です。さらに少子化の影響もありまして, 学校の体制や学校の取り組みも大きく変革しています。すなわち, どのような学生が入学してきて(基本的には入りたい学生は受け入れて), 内部でどのように教育していくかが重要な方針として本校で位置付けられました。例えば, 成績処理 1つをとってみても, 1. 平均・総合的な評価から形成的評価(学習向上, 自己教育力の評価)へ, 2. 定期試験から継続的评价へ, 3. 分析力, 応用力, 総合力の評価から思考・判断力や創造性への評価へ, と多様性を受容するシステムへと変更する努力を現在求められています。3 の創造性に関しては, 私自身がそれをもっているわけではありませんし, どのような講義内容にしたらいかが迷いつづけていますが, 現在では学生自身が自ら出してきたアイデアに関して高く評価する方法を採用しています。また, 近々, 教官の行うすべてのこと(すなわち講義内容, 成績の評価方法, 研究内容, 定期試験の内容など)は基本的に「公開」され, 外部機関に学校の取り組みの評価をしてもらうことになりました。

このように高専が変わる中, 技科大との関係も変わっているように思われます。15 年前には編入学を希望するトップクラスの学生をほとんど技科大に推薦したようですが, 今では(多くの大学が門戸を開いたため)その率が減少してきました。進学率は...といいますが, 15 年前には本校では 1 割程度でしたが, 3 割強に増加し, さらに高専自体にも専攻科を設置できますので(本校では 2000 年設置予定です), 今後ますます増加すると思われます。今, 卒業生として切に希望することは高専生にとってやはり技科大が「魅力ある大学」であってほしいということです。高専の担うこと, 技科大の担うことは違うとは思いますが, 技科大では, やはり年少のころから技術に触れてきたユニークな学生を他の教育機関とは違うユニークな方法(講義, 実験実習)でさらに実践型の技術者として育ててほしい, また, 研究面でも(私個人的な意見としては)他の総合大学とは違う, 何かある意味で「特徴ある大学」になってほしいと願います。

私自身も高専から技術科学大学への経歴を辿りましたが, 外国の目からみても実にユニークな課程での教育だと思います。私もこれから微力ですが, 技科大と高専との橋渡し役として密に連携をとれたら...と考えています。まとまらないことを勝手な私見を交えて長々と書いてしまいましたが, 以上を高専の近況として報告させていただきます。

P.S.

私ごとで恐縮いたしますが, 最近, 結婚しました。嫁さんがピアノ講師をしていることから, 私も 30 の手習いでピアノをはじめました。恥ずかしい話ですが, 今まで仕事しかやってきておらず, 何もこれといってできません。最近週末ですが, 仕事や研究以外の空気に触れて, 新鮮で豊かな心もちになります。ぜひ, 働きに働いている方ほど, 別の「何か 1つ」を持たれてみてはどうでしょうか。

**貴重なご意見ありがとうございました。  
高専と技科大の橋渡し役として今後ともご尽力願います。  
ご結婚を祝し, お二人のご多幸と子孫繁栄を祈念いたします。**

## 近況報告

太田 光信

(1992 年 3 月修了, 流体工学研究室)

皆さん, こんにちは。1992 年修了の太田と申します。修了してから感覚的には 2~3 年ぐらいいか感じられないのですが, 時の流れは早く, はや 7 年経ちました。

さて, 私は現在愛知県内の豊田工機(株)という会社にて, 自動車部品のパワーステアリングを設計しております。現職は 7 年ですが, 半分は自分の会社で部品の設計。残りの半分はカーメカにて, 車両の設計をしました。幾つかの職場を渡り歩き, 新鮮な立場から貴重な経験をさせてもらっています。そして, 自動車部品の開発にも時代の流れを感じています。例として

(1) CAD, CAE の高度, 統合化:

私が入社した頃は, CAD はドラフタ + データベースぐらいいかにしか使えなかったのですが, ここ最近では 3D-CAD の発達で, 車両をコンピュータ上で仮想試作したり, FEM 解析がお手軽になってきて, 設計段階で積極的に使われるようになってきました。

また, 様々なシミュレーション技術を駆使し, 実験的評価を減らし, 開発費, 納期の削減が図られてきています。

(2) 部品のシステムモジュール化の推進:

機能部品等の開発, 組立がカーメカから部品メカに移行しつつあります。

その他, 安全, 環境, 組織等あらゆるところに部品, 車作りの変化を感じています。

ところで, 遊びの方では修了後, 同級生の磯村君に誘われて, ヨットレースを始めました(ちなみにヨットのオーナーの一人はエコロジー工学の水野先生です)。10 数人乗りのクルーザーで三河湾を疾走しております。今年の 5 月には「エリカカップ」

という参加艇数では日本最大級のレースで準優勝しました。ヨットに興味のある方は御一報下さい。

また、学生時代よりやっているマラソンも継続中です。卒業後フルマラソンを 10 数度完走しました。ウルトラマラソンにも挑戦しております。サロマ湖 100 キロウルトラマラソンに 2 度挑戦しましたが、いずれも失敗してありますが…。来年か再来年また挑戦します。こちらの方も興味のある方は御一報下さい。

E-mail : nobu-ohta-vgn@mwa.biglobe.ne.jp

**仕事、趣味ともに精力的に取り組まれているご様子、これからの益々のご活躍を祈念いたします。**

## 航空機に魅せられた男

渋谷 進一

(1996 年 3 月修了、蒔田研究室)

豊橋技科大第一工学系 OB のみなさまこんにちは、平成七年度修了の渋谷です。在学中は蒔田教授の指導を受け、乱流拡散の風洞実験をやっておりました。大学院を修了し関西にある機器メーカーに就職し、早くも四年の月日が経とうとしています。今回原稿の執筆を依頼されて、“さて何を書こうかな”と考えたのですが、依頼されたときに“飛行機のことでも書いてよ”と言われたので、“たまには変わった記事がある方が面白いかな”と思い、この執筆をしています。

まず“飛行機のこととは何のことだ。”と知っている方もいるでしょう。それは私が今現在ハマっている趣味のことで、要するに航空写真(航空機の写真を撮る)のことです。この趣味を始めようと思ったのは、航空機に興味があったこと(流体力学を専攻していれば当然かもしれないが)、卒業する少し前にカメラ(写真)に興味があったことでした。

最初に、少しばかりのお金が貯まったところで、一眼レフのカメラを買い(そのころは航空写真を撮ることよりもカメラが欲しかったような気がするが...)、航空関係の雑誌から基地公開日の日程を調べ、まずは手近な航空自衛隊基地(戦闘機の配備されている)の公開日(航空祭)に行くことにしました。ただ、そのころはどこに基地があるのかもよくわかっておらず、初めて行った(行けた)のは結局シーズン最後の宮崎県にある新田原(ニュータバルと読む)航空基地でした。そしてこの日の感動が、この趣味にはまる(航空機に魅せられる)きっかけとなりました。

新田原基地航空祭に行こうと思ったのは、F-15J と F-4EJ の二種類の要撃戦闘機が配備されていたこと、そのころ工場勤務で大分県に住んでいたこと、何より訓練のための識別塗装の施された F-15DJ を装備する飛行教導隊が所属していたことです。(なんとといっても変わった塗装の機体はマニアの心をくすぐります。)

こんな理由で初めての航空祭に行ったのですが、そこで(航空機に魅せられるくらい)何に感動したかというところ、まずジェ

ットエンジンとアフターバーナーの爆音でした。特にアフターバーナーの音は爆音とか言うレベルでなく、空気を強引に叩きつけるような音でした。そして今まで飛行機のエンジン音(特に戦闘機の)をほとんど聞いたことの無かった私にとって、この音は体の隅々にまで電気が走ったような、麻痺的な甘美な感覚を私に植え付けてしまいました。

さらに戦闘機の機動飛行、特に F-15J イーグルの機動は、機体の大きさの割に軽快なもので、まるで木の葉が舞っているようでもあり、急上昇、急旋回などのパワフルな機動も私の目を引きつけ魅了してしまいました。

また生まれて初めて見たブルーインパルススの演技もすばらしく、その軽快な演技と整然とした隊形、それらに描くカラーズモークの軌跡の美しさに感動しました。(その後、航空祭で何回も見ていますが、いつ見てもすばらしいです。)

そういう訳ですっかり飛行機に魅了されてしまった私はすぐに次の航空祭を調べ、足を運ぶようになり、今ではほとんど病みつきになってしまいました。だいたい年間 7~10 回の航空祭へ出かけ、1 回に 300 枚程度の写真を撮っています。従ってこれまでの約三年間でのべ 24 カ所の航空祭に出かけ、約 3500~4000 枚の写真を撮りました。その中には当然いくつか感動したシーンや嬉しかったこと、楽しかったことがたくさんあり、さらに深みへとはまっていきました。いくつか挙げると

- ・1997 年の岐阜基地航空祭で、対地攻撃のデモ飛行を行った T-2(国産初の超音速高等練習機)を撮っていたときに、急降下の方向が客席の方に向いていて、たまたま正面からのアングルで写真が撮れたとき、ファインダーの中で T-2 の細い機体が、急速に大きくなっていくスピード感と迫力に圧倒されたこと。{それ以来 T-2、F-1(T-2 を改造した支援戦闘機)、F-104(現在はすべて退役した超音速要撃機)といった細長く、小さい主翼の飛行機がお気に入りになってしまいました。}

- ・1996 年の新田原基地航空祭で、子供の頃からの憧れだった F-14A トムキャットを幸運にも最初の航空祭で見ることができたこと。

- ・1999 年の小松基地航空祭ではブルーインパルスのパイロットほぼ全員にサインをして頂き、二言三言お話をさせていただきパイロットを身近に感じることができたこと。

- ・1997 年と 1999 年の築城基地航空祭では戦闘機のコックピットを見せてくれるだけでなく、座って記念写真を撮るイベントをやっており、F-15 と F-1 のコックピットに座りました。ちなみに戦闘機のシートは、背中が 90 度真っ直ぐに立っており、車のように寝ていません。これは射出座席の為なのですが、座ったときは意外な感じがしました。

- ・1999 年の新田原基地航空祭(この執筆はその 1 週間後に書いてます)で東京から初めて来たという人といろいろ話しながら、寒かったけれども楽しい一日を過ごせたこと。(ちなみに天気が良ければ最高だったのに・・・)

この他にもいろいろ楽しい経験は数多くあり、これからも時

間とお金の許すかぎりできるだけ多くの航空祭に行こうと思っています。特に来年は関東以北の基地に行こうと思っています。(今まで、浜松より向こうには行ったことがない)

つまらない話を最後まで読んでいただき有り難うございました。これを読んで飛行機に興味をもった方、一度見てみたいとか思った方、是非連絡ください。待ってます。

e-mail address shibutani-shinichi@aioiseiki.com

**お仕事だけでなく、趣味でもがんばっているんですね。**

## 近況報告

伊藤 友紀

(1983年3月修了, 小沼研究室)

皆様、お元気でしょうか、それぞれの職場、立場で、ご活躍のことと思います。私も技科大を修了して約16年が経ちました。今年は私にとっても変化の年になります。10年間いた事業部を離れ、2000年最初の年より、新たな事業部の卵の所へ、移る事になりました。周りの環境(社会、職場、家庭)がどんどん急激に変化している今自分をしっかり見つめ、時代に流されずに常に前向きに生きて行こうと思っています。

子供2人(小3, 小1)は、無邪気に、どんなことにも(勉強、習い事、遊び)取り組んで、どんどん、いろんなこと取り込んでいます。親も気持ちだけは、負けずにいたいものです。

年賀状のやりとりすら希薄になり、卒業後疎遠になった、同級生、先輩、後輩の皆様がこの場を借りて年賀状の御挨拶とさせていただきます。とりとめもない文章ですが、皆様お元気で、また、いつか、お会いできる日を!!

2000年元旦

**職場で中堅になると、『変化の年』『勝負の年』という時が来るものだと思います。そこをいかに乗り切るかではないかと思えます。『不易流行』という言葉があります。両方を大切に、今を見つめ、将来を見通してがんばってください。**

## 近況報告

長野 進

(1984年3月修了, 大竹研究室)

ふるさは遠きにありて思うもの、住めば都、とは良く言ったものである。

ふるさは、鳥取県米子市。鳥取といえば、鳥取砂丘や因幡の白兔の昔話有名だが、それは鳥取県東部のことである。米子(よなご)市は、鳥取県西端に位置し、この界隈では商業や鉄道の中心地である。東に伯耆富士(ほうきふじ)とも呼ばれる名峰大山(だいせん)を望み、北部には海に湯が沸く皆生温泉(かいけおんせん)や砂浜の広がる日本海海岸、隣接して日本一、二を争う水揚げ高で新鮮な魚介類が豊富な境港市、西に出雲大社(島根県)、といった具合に、風光明媚で空気も食物も

おいしい。難点は、冬には平地でも雪が積ることだろうか。ここ10年ばかりは積雪回数も積雪量もめっきり少なくなっているようである。この雪もスキーを楽しむ人にとっては、30分も車を走らせれば大山のスキー場にいけないのだから悪くもないだろうが。

さて、住めば都の都とは、愛知県日進(にっしん)市。名古屋市の北東に位置し、東名高速道路の名古屋ICと東名三好ICが近い。会社は、徳川時代の直前に長久手の合戦があった長久手町にあり、車で5分とかからない。借金をして家を買って、奥さんと子供と三人暮らしである。朝、8時過ぎに家を出て、夜、8時半ごろに帰宅することが多い。趣味は、ゴルフ、卓球、スキー。ゴルフは年10回程度ラウンドする。愛知県界隈は他の大都市圏に比べるとプレー代が安い。腕前は90切れば調子が良い、という程度である。卓球は、週一回、1時間半程度練習する。まったくの素人だったが、週一ぐらいは汗をかこうと、入社8年目ぐらいから卓球同好会に入っている。スキーは入社してから始めて、上達しないが、いまでも年1、2回は楽しんでいる。風光明媚でもなく空気と食物は普通だが、ごみごみしているわけでもなく高速道路で足を伸ばせば日本のアルプスや太平洋へも行ける。

ところで、正月とお盆や大型連休には、帰省のため日進市と米子市、それと奥さんの実家の兵庫県真ん中よりもやや北にある兵庫県和田山町を車で移動する。3人だが、子供は産まれてまもないため、なにかと荷物が多く列車では困難で、車を利用する。ほとんどの行程が、高速道路、自動車専用道である。2000年正月の帰省では、東名、名神、中国道、米子道で日進市から米子市まで移動し、次に、米子道、中国道、播但自動車道を経て和田山町に。そして、播但自動車道、中国道、名神、東名で我が家まで帰り着いた。車の正味運転時間(サービスエリアでの休憩は含まず)は、全部で約12時間。今シーズンは2000年問題のためか帰省ラッシュでの渋滞がきわめて少なかったため、この程度の時間であった。いつもならば、この時期、正味運転時間で15~20時間かかる。この移動、年中行事といってしまうとそれまでだが、なんとかならないのだろうか。大渋滞の原因は不注意運転による事故や急ブレーキ。せめて渋滞だけは交通管制システムなどの導入で回避して欲しいと思う。

自動車関連会社で研究・開発に携わっているものであるが、簡単で速く、安全、低公害な移動手段はないものだろうか、と帰省先でおいしい空気と食物、風光明媚な自然に囲まれながら思ったのである。

**同じ会社に勤める私(藤川)は住めば都派。からっ風の吹く群馬の田舎よりは、名古屋近郊のこの地の方が今は好きです。皆さんはどちらですか?**

**現在の最大の研究課題は  
娘のハートをキャッチすること!?**

## 出口 祥啓

(1990年3月総合エネルギー工学専攻修了, 大竹・吉川研究室)

平成2年3月に豊橋技科大を卒業して既に結婚, 2児の父親となりました。現在, 三菱重工業(株)長崎研究所でレーザ計測, 反応解析に関する研究を実施しております。工業界でも, 環境問題は大きな関心事であり, その点, レーザや理論解析の研究テーマは多く存在します。現在は, 研究そのものを自分の手で実施することは少なくなり, 研究テーマ創出及びその予算獲得が主な仕事となっております。もう一つ重要な仕事が, 装置が故障したときの対処! 学生時代と同様, 試験装置は頻りに壊れます。現在の業務は, 営業及び修理屋といったところでしょうか! ?。

最近, 会社にも若い研究者が多く入社し, 世代の違いを感じることもしばしばです。ところが, 5歳になる息子とは, "ウルトラマン", "仮面ライダー"といった漫画ヒーローの話題で, 意外と会話には苦勞しません。ウルトラマン, ウルトラセブンの必殺技など, 息子に自慢げに話しております。もちろん今流行の"ポケモン"などは, 私の方が教えてもらう立場であることは言うまでもありません。

一方, 3歳になる娘とのコミュニケーションは以外と難しく, 私への関心事は出張時に買ってくるお土産となっております。いつ電話を掛けても, お土産は何かと聞かれます。この娘のハートをキャッチするハードルは高く, お土産を買ってきた直後は"お父さん派"になるのですが, 1時間もたない内に, すぐに"お母さん派"に戻ってしまいます。大学, 会社で培った問題攻略技術を娘攻略にも使っていきたいと思いますが, どうも勝手が違うようです。大学, 会社の研究と異なり, どうも理屈がなく, そのときどきの状況を判断し, 対処が必要なようです。(これから到来する変化の激しい時代の研究業務には, このような判断が, 最も重要なのかも知れません。) 今後は, お土産といった一時的な対処法ではなく, 娘のハートをキャッチできる

よう, 最新技術を駆使していきたいと考えております。いつの年代になっても, 最大の研究課題は, 女性のハートを理解することのようです。良い方法をご存じの方は, 是非ご一報を!

**小学生以下の娘3人の我が家(藤川家)では, 娘たちと取っ組み合いをして遊んでいて, 今のところは結構好かれています。ただ, これが中学, 高校になっても通用するとは思えませんので, そろそろ別の手を考えないといけないかも知れません。**

## 事務局よりお願い

会員への連絡網を強化したいと考えております。**電子メールアドレスをお持ちの方は, 下記アドレスの何れかにお知らせ頂きますようお願い申し上げます。**

また, **住所や勤務先等の変更の折にも必ずご一報頂くようお願い致します。**電子メールを利用しておられない方は, 下記宛先に郵便でお知らせ下さい。

## 1系同窓会事務局メールアドレス

yanada@mech.tut.ac.jp

minamoto@mech.tut.ac.jp

seki@mech.tut.ac.jp

## 郵便用宛先

〒441-8580 豊橋市天伯町

豊橋技術科学大学 第1工学系同窓会 事務局

## 会計報告

第1工学系同窓会の財政状況の概略を以下に示します。

平成12年1月10日現在の資金総額: 約247万円

年間収入: 約15万円(平成11年実績)

年間支出: 約17万円(平成11年実績)

## 役員一覧

会長 今泉 敏幸 (1期, Toshiyuki\_Imaizumi@chkk.co.jp)

副会長 藤川 武敏 (1期, fujikawa-t@mosk.tytlabs.co.jp)

理事 池崎 勇 (1期, ikezaki-isamu@mui.biglobe.ne.jp)

柳田 秀記 (1期, yanada@mech.tut.ac.jp)

秦 信一 (3期, aa16074@notice.kobelco.co.jp)

感本 広文 (11期, minamoto@mech.tut.ac.jp)

関下 信正 (11期, seki@mech.tut.ac.jp)

監査 小西 正則 (1期, konishi@masa.tec.toyota.co.jp)

## 役員募集

現在の役員は3期のひとりを除けば, 1期と11期に偏っており, 同窓会の活動(主に会報の発行)を行う上でやや支障が生じております。そう言うわけで, 昨年, 会報上で役員募集を行いました, 予想されましたように, どなた様からもお申し出がありませんでしたので, 今回はこちらから一本釣りさせていただきたいと思っております。お断りになりませんよう, よろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

ありがたいことに, 昨年は大過なく一年が過ぎました。大過なくと言うより, 逆に喜ばしいことがあったように思います。私が購読している新聞は「中日新聞」ですが, その朝刊や夕刊の1面トップに技科大の先生の研究成果が, 昨年12月に相次いで紹介されたことです。残念ながら1系の教官の研究成果ではないのですが, 大学全体としてイメージアップになるものと思います。受験生の数が増えてくれることを期待しているところです。

今回の会報もこれまでと同じスタイルとなりましたが, ある同窓生からはテーマを設定してはどうかという意見が寄せられました。会報に対する同窓生の皆様のご意見とご寄稿をお待ちしております。

最後になりましたが, ご寄稿頂いた小沼先生と9名の同窓生の方々に深く感謝いたします。

柳田秀記(同窓会事務局担当)